

お祝いと期待

神奈川大学法学部教授／前学長
山火 正則



21世紀COEプログラム事後評価において、「人類文化研究のための非文字資料の体系化」事業が最高ランクの評価をお受けになられましたことを心からお慶び申し上げます。ここに示された人材育成・研究活動両面にわたる高い評価は、「教育と研究の融合」を理念のひとつとする本学にとって大いに誇るべきことであり、この事業立ち上げ当時の学長として誠にありがたいことだと思っています。福田教授はじめ、この事業に参加されたすべての皆様のご尽力に対して、畏敬の念を禁じえません。

この事業は、研究所として多くの優れた成果を積み重ねてこられた日本常民文化研究所、これを実質的な母体として設置され、短期間のうちに学位取得者を多く輩出するなど、この分野の研究者の育成に大きな成果を挙げてこられた歴史民俗資料学研究所を中心として構想・組織され、文部科学省に申請されたものでした。したがって、今回の高い評価は、このふたつの機関の評価にもつながるものであると同時に、日本常民文化研究所には、この事業を引き継いだ非文字資料研究センターの親機関として、これを立派に育てあげて、歴史民俗資料学研究所には、これまで以上に、この分野の研究者の育成に積極的に取り組むことを期待しているように思われます。

非文字資料研究センターについては、この事業の持続的展開として今回の評価の対象となっているところですが、いずれにしても、このセンターがこれを契機として更なる充実と進化をしつづけ、本学の目指す真に大学らしい・自立した風格ある大学の中心として発展されることを願っています。「非文字資料の体系化」という未開の学問分野を切り拓き、これに基づく独創的な成果を広く「人類文化の研究」の基盤として提示する—この特殊ではあるが普遍性をもつ研究は、やがて人類文化の研究に新たな視点と方法をもたらし、これを大きく前進させ、ひいては人類の福祉の増進に新たな展望を開くものとして、社会的に注目されることが予想されます。センターには、大いに期待しています。